

第2回 中川村都市計画マスタープラン改定及び中川村立地適正化計画策定検討委員会 会 議 録

1. 開催日時・場所

令和8年3月17日（木） 18:30～20:15

中川村基幹集落センター集会室

2. 出席者

番号	団体名	役 職	氏 名	備 考	出欠
1	一般公募	一般公募	大池 達也		出
2			米山 永子		出
3	学識経験者	松本大学総合経営学部 観光ホスピタリティ学科 教授	白戸 洋	委員長	出
4	中川村議会	総務経済委員長	松村 利宏		出
5	中川村教育委員会	教育委員	桃澤 孝之		出
6	中川村社会福祉協議会	会長	松村 隆一		出
7	中川村商工会	会長	宮下 進吾	副委員長	出
8	中川村小中学校PTA 連絡協議会	中川西小学校PTA 副会長	出澤 秀和		出
9	中川村総代会	会長	山内 新一	R8.1.1交代	出
10	中川村農業委員会	農地利用最適化推進委員	矢澤 正人		出
11	中川村民生児童委員 協議会	副会長	松下 春男		出
12	長野県伊那建設事務所	所長	川上 学		欠

事務局

番号	職 名		氏 名	出欠
1	中川村	村長	宮下 健彦	出
2	地域政策課土地政策係	課長	眞島 俊	出
3		課長補佐兼土地政策係長	片瀬 雅崇	出
4		主任主事	春日 瑠介	出
5		建設環境課建設係	主任	福沢 由希子

3. 次 第

1. 開会
2. あいさつ
3. 委員の異動について
4. 審議事項等
 - (1) 計画の構成と関連性
 - (2) 計画の概要と中川村の現状と課題
5. その他
6. 閉会

4. 配布資料

- ・【資料1】ふたつの計画の構成と関連性
- ・【資料2-1】計画概要～現状と課題
- ・【資料2-2】住民意向調査
- ・【資料2-3】都市計画マスタープラン事後評価と課題

5. 議事

(1) 計画の構成と関連性

(2) 計画の概要と中川村の現状と課題

委員長 (1)～(2)を通して、ご質問等を出していただきたい。

委員 質問がいくつかある。①ここで理解することはなかなか難しい。これから委員会を2回か3回やるだけで良いのか。②前回のマスタープランの理念を継続していくのか。③上位となる総合計画の将来像との整合性について確認したい。

事務局 ①は充実するよう進めて欲しいという要望で良いか。

委員 この回数では中身の濃い議論が難しいことを心配している。

事務局 ①これまでの委員会では、現状の整理を説明させていただいた。次回以降は、計画の踏み込んだ部分の検討に入っていくことから、委員会開催の前に、資料をお渡しし、委員会前に目を通していただく体制を取るよう考えている。②次回以降の検討となるが、基本的なところは変わらないと考えており、継承していく方向である。③最上位の計画であるため、必ず整合させていくことになる。

委員 委員会の開催回数について、前回の工程表だと4～5回となっている。どのような考えなのか。

事務局 回数は、他の自治体の事例を踏まえて設定している。特別な事項が無い限り、予定通りの回数で審議を進めていくことができると考えている。

委員 他の自治体と同じレベルで進めるという事か。

事務局 他の自治体を参考にして予定を立てている。この立地適正化計画は都市計画区域を持っている市町村が策定することができる。1352市町村のうち650市町村は策定を終えている。先行事例が多々あるためそれらを参考に設定している。

委員 難しい内容なので、もう少しやった方が良いのではないか。

委員長 大事なところはじっくり時間をかけていくなど、仕分けをしながら皆さんが納得する形で進めていきたいと私は考える。皆さんのご協力をいただきたい。

委員 事前に資料をいただけるのであれば、少しは理解しながら進められると思う。

委員 各地域において、地区への加入率のデータはあるか。村民の多様化が進んでおり、住民の意向

を調べるには必要かと思う。そのデータがあれば違った角度から見ることはできないのではないかと思う。

事務局 加入率のデータは無い。今回の計画は都市計画に関するものであるため、地区への加入は、別の計画の方で対応した方が良く考えている。

委員 加入率は我々の地区でも下がっている。行政に対する意識にも関わってくるものではないかと危惧しており、都市計画マスタープランにも影響すると思った。

委員長 この計画だけで村の様々なことが動くわけではない。

委員 20年前の村を取り巻く状況と、現在の人口減少やリニアなど色々のことが違っている。その辺を取り上げきれていないのではないか。リニアは最大の発展のチャンスとなっている。業者の資料を見ると分析資料ではその辺が無視されているが、村に住んでいる人はリニアを大きなことと捉えている。

事務局 リニアに関しては、地域の最大の発展のチャンスとなってこようかと思う。説明を省いてしまったが、資料2-3の3ページにリニアに対する基本姿勢を示している。

委員 土地利用の再生をどのようにしていくのかについて、土地利用の箇所にもまったく入っていない。しっかりと入れておく必要がある。資料には一言も入っていない。そのことについてどのように考えているのか。

事務局 参考にさせていただく。資料2-3の8ページにリニアに対する土地利用の課題について記載している。課題に沿って計画の立案を進めていきたい。

委員 資料2-2の住民意向について、アンケートやワークショップを行っているが、サンプル数があまりにも少ないと感じる。世代もどこまで細分化しているのか。根本は住民意向にある。統計学的に果たしてこれが住民の意見としてしまっても良いのか。

事務局 サンプル数の少なさについて、ご協力いただく方を集めることに苦慮した経緯がある。しかし、村の人口4,500人と考えた場合、それほど悲観する数ではないと考えている。昨年に1,000名を対象に住民アンケート調査を行い、305通の回答をいただいていることを併せて報告する。

委員長 アンケートの回答数も大事だが、その結果が肌感覚としてどうなのかということを考えていくのもこの委員会の役割である。

委員 国道153号の特に坂戸に関する要望について伺いたいために、伊那建設事務所の出席をお願いしたい。

委員長 大事な事なので、出席をお願いしたい。

事務局 所長はご多忙のため、今回も欠席となっている。次回から代理の方でも出席いただけるよう依頼する。

委員 委員会の回数を参考にしたのは、近隣の市町村なのか、それとも長野市や松本市などの大都市なのか。

事務局 近隣で策定中であるのは飯島町や高森町である。規模的に近く、地域的に似ていることから、参考にしている。

委員 中川村はもっと真剣にやらないと駄目である。飯島町や高森町と同じような考えでやっては駄目だと思う。

事務局 審議を進めていく中で、対応していく。

委員長 法律で回数が決まっている訳ではないので、十分に納得がいくようにしたら良い。私は10年前から飯田市の長姫高校と一緒に地域人教育の連携授業を続けている。当時の市長もおっしゃったが、リニアが出来ると良いこともあるが、吸出し効果にもなり、若い人が出て行ってしまうことも考えられる。ハード面の結果がどうなるのかは、ソフト面の努力次第であると思う。地

域人教育とは、220時間高校生に地域の事を学んでもらうという授業である。開校式で市長が飯田市から出ていきたいか、残りたいかと手をあげさせたら、3：7で7割が飯田市から出ていきたい方に手を挙げた。その間に地域住民等と一緒に企画を続けてきた。すると、途中から6：4とかに逆転し始めた。計画は作るよりも、どう実現させていくのかが大事である。どう実現させていくかの部分については、この委員会の終了後に検討を行っていかなくてはならないこともたくさん出てくるかと思う。現実的に実現させていくことも必要である。また、私は駒ヶ根市で自治組織のあり方検討会に携わっている。こちらは、とことんやりましょうという方針で2年間行ったが、それでも充分ではなかった。計画の実現に向けては、住んでいる方がどれだけ本気で取り組んでいくかが重要になる。そのきっかけになる委員会にしていけたらと思う。以上で、本日の審議は終了する。